

2. 事業の概要と成果								
<p>(1) 上位目標 の達成度</p>	<p>【上位目標】 ジブチ共和国マルカジ難民キャンプで生活するイエメン出身の青少年のライフスキルを高め、適切に保護される環境を整えること。 (達成度とその理由) 100%達成 「子供の保護センター」及び「多目的センター」の完成により、子どもに関する相談受付や住民同士の話し合いを行う物理的な場所が整備された。啓発看板の設置により住民が「子どもの保護とは何か」について接する機会が増え、提案箱の設置により全住民に発言・提案の機会が提供されることになった。子どもや青少年は日々の「子どもの広場」活動や研修を通してライフスキルが向上し、保護者の子どもの保護・権利に対する理解が深まった。 ※詳細は、「(3) 達成された成果」のとおり。</p>							
<p>(2) 事業内容</p>	<p>(ア) ハードコンポーネント</p> <p>(1) 「子どもの保護センター」の建設活動 キャンプ内の子どもと若者の置かれている状況に関する様々な情報を集め住民に共有する拠点及びカウンセリングの実施スペースとして、「子どもの保護センター」を建設した。施設内に机、椅子、棚及び情報発信のためのホワイトボードを整備した。</p> <p>(2) 「子どもの広場」の整備と「多目的センター」の建設活動 「子どもの広場」の屋根にソーラーパネルを設置、数百人規模の住民が一堂に会することができる「多目的センター」を建設した。</p> <p>(3) 子どもの保護の啓発看板及び提案箱の設置活動 子どもの保護や権利に関する啓発看板を難民キャンプ入口、「子どもの保護センター」前及び「多目的センター」前の合計3箇所に設置した。「子どもの保護センター」前及び「多目的センター」前の合計2か所に提案箱を設置した。</p> <p>【完成式典】 2019年8月26日、マルカジ難民キャンプ内多目的センターにおいて、子どもの保護センター及び多目的センターの完成式典を開催した。来賓は次の通り。在ジブチ日本大使館／ジブチ内務省／ONARS／UNHCR／オボック地方議会／マルカジ難民キャンプセクションリーダー／WFP／UNFID／IOM／NRC／DRC／LWF。加えて、キャンプ内住民約200人が参加し、当日の式典の様子は、現地メディアのRTDにてテレビ放映された。 https://www.youtube.com/watch?v=AG3lW8cuji0 (16:26より)</p> <p>(イ) ソフトコンポーネント</p> <p>(1) 子どものライフスキル向上研修(「子どもの広場活動」) 1日平均38人の子どもたちを対象に平均週5回、スポーツや文化活動を通じたライフスキル向上活動を行った(合計384回、延べ14,529人)。加えて、難民キャンプから車で1時間ほど離れたタジュラ市において、問題解決スキルや感情対処スキル等のライフスキルを養うグループ活動を6回実施し、62人(延べ・実数とも)が参加した。 ※詳細は以下の通り。</p> <table border="1" data-bbox="384 1756 1378 1877"> <tbody> <tr> <td>1. 2018年9月15日(10人)</td> <td>4. 2019年2月1日(12人)</td> </tr> <tr> <td>2. 2018年11月3日(11人)</td> <td>5. 2019年2月2日(10人)</td> </tr> <tr> <td>3. 2018年12月8日(11人)</td> <td>6. 2019年2月8日(8人)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 青少年のライフスキル向上研修 1回平均17人(実数22人、延べ101人)の青少年を対象に、子どもの権利・保護・心理・記録・リーダーシップをテーマとした研修をキャンプ外3回、キャンプ内3回の計6回実施した。 ※詳細は以下の通り。 <キャンプ外></p> <table border="1" data-bbox="384 2063 1378 2101"> <tbody> <tr> <td>1. 2018年9月2～3日(15人): 子どもの権利・保護</td> </tr> </tbody> </table>	1. 2018年9月15日(10人)	4. 2019年2月1日(12人)	2. 2018年11月3日(11人)	5. 2019年2月2日(10人)	3. 2018年12月8日(11人)	6. 2019年2月8日(8人)	1. 2018年9月2～3日(15人): 子どもの権利・保護
1. 2018年9月15日(10人)	4. 2019年2月1日(12人)							
2. 2018年11月3日(11人)	5. 2019年2月2日(10人)							
3. 2018年12月8日(11人)	6. 2019年2月8日(8人)							
1. 2018年9月2～3日(15人): 子どもの権利・保護								

	<p>2. 2018年11月16日(13人):子どもの心理</p> <p>3. 2019年3月22~23日(18人):全テーマ</p> <p><キャンプ内></p> <p>1. 2018年7月11日(14人):子どもの権利・保護・記録</p> <p>2. 2019年1月8~9日(19人):子どもの権利・保護・記録</p> <p>3. 2019年1月11~12日(22人):リーダーシップ・子どもの心理</p> <p>その他2回、復習の機会を設けた。(2018年9月15日:12人/2019年2月19日:17人)</p> <p>(3) 保護者対象研修</p> <p>1回平均32人(実数・延べ126人)の保護者を対象に、子どもの権利・保護・キャンプでの子どもの課題と対応をテーマとした研修を4回実施した。 ※詳細は以下の通り。内容は毎回同じ。</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 2018年7月12日(8人)</td> <td>3. 2018年11月18日(34人)</td> </tr> <tr> <td>2. 2018年9月1日(43人)</td> <td>4. 2018年12月19日(41人)</td> </tr> </table>	1. 2018年7月12日(8人)	3. 2018年11月18日(34人)	2. 2018年9月1日(43人)	4. 2018年12月19日(41人)
1. 2018年7月12日(8人)	3. 2018年11月18日(34人)				
2. 2018年9月1日(43人)	4. 2018年12月19日(41人)				
(3) 達成された成果	<p>【成果1-1】 マルカジ難民キャンプの住民が子どもの保護に関する情報に接したり、子どもが悩みの相談をすることができる。</p> <p>(指標1-1) 子どもの相談件数0件→10件以上 (達成度とその理由) 100%達成</p> <p>子どもの保護センターが完成した2019年1月以降、合計16件の相談に対応した。相談者の内訳は男性9人、女性7人。年齢の内訳は10歳未満が6人、10代が7人、30代が3人。相談内容の内訳は、教育6件、家庭内暴力事案2件、性的暴力事案3件、児童虐待事案3件、心理障害事案2件。9件は当団体の実施する家庭訪問による発見、2件は子どもの保護者による申告、5件はUNHCRからのリファー案件となっている。子どもの保護センターには、特別なケアを必要とする子どもの統計や保護プロセス等の情報が掲示されており、難民及び国際機関・国際NGOが、子供に関する最新の情報を得ることができている。</p> <p>【成果1-2】 保護者が子どもを取り巻く環境や地域の課題等を話し合うことができる。</p> <p>(指標1-2) 話し合う機会0件→5件以上 (達成度とその理由) 100%達成</p> <p>多目的センターが完成した2019年7月以降で、合計5回住民集会が開催されており、保護者達によって、子どもの不適切な言動と対処方法について話し合われた。</p> <p>【成果1-3】 住民自らキャンプ内の子どもの保護をめぐる現状や改善案について表現できるようになる。</p> <p>(指標1-3) 表現機会0件→10件以上 (達成度とその理由) 100%達成</p> <p>提案箱の設置が完了した2019年7月以降で、子どもへの教育、環境美化の呼びかけ、子どもの広場活動の多様化等、合計15件の要望や提案が寄せられた。これまで難民がジブチ政府や国際機関、国際NGOに意見を述べる機会は限定的であったが、提案箱の設置により、年齢性別を問わず全住民が常に意見を述べる機会を得られるようになった。</p> <p>【成果2-1】 マルカジ難民キャンプの子どもたちのライフスキルが向上する。</p> <p>(指標2-1) 研修対象者及び保護者へのアンケートで、研修対象者の60%以上の子どもにおいて、ライフスキル10項目に関する能力向上が確認される。 (達成度とその理由) 100%達成</p>				

キャンプ内での活動及びキャンプ外での活動においてライフスキル10項目に関する事前・事後アンケートを実施し、活動直前のアンケート結果と活動から1か月後のアンケート結果を点数化・比較することで、能力の向上を測った。その結果、67%において能力向上が確認された。また、子どもたちと活動を行う青少年ボランティアからは、キャンプ外の活動の前後で、子どもたちがより社会的になり、今まで話したことのなかった子どもとも積極的に話す様子が見られたと報告を受けている。

【成果2-2】

マルカジ難民キャンプの青少年たちのライフスキルや「子どもの広場運営」の知識が向上する。

(指標2-2) 研修対象者への事後テストで正解率が平均70%以上となる。

(達成度とその理由) 100%達成

子どもの心理・権利・保護・記録・リーダーシップに関するテストを行った結果平均正解率が90%となった。青少年たちからは、「子どもの広場」に関する知識だけではなく、子どもとの接し方の参考にもなり、難民キャンプ内での喧嘩が減少したという保護者からの報告があった。また、活動を通して子どもたちを「観察する」習慣が身に着いたほか、時間を守ることの重要性を学んだという声もあがった。

【成果2-3】

マルカジ難民キャンプの保護者の「子どもの権利」や「子どもの抱える問題」の理解が深まる。

(指標2-3) 研修対象者への事後理解力テストで正解率が平均70%以上となる。

(達成度とその理由) 100%達成

子どもの権利・保護に関するテストを行った結果、平均正解率が71%となった。保護者からは、学校の教師から身体的又は言葉の暴力を受けている子どもを守るために、起きたことを適切な機関へ告発するべきだという意見や、放置されたごみによる子どもの健康被害を防ぐため、地域全体での清掃デーを設ける等の提案が出た。

【本事業が貢献する持続可能な開発目標 (SDGs)】

本事業で達成できた成果は、保護者が子どもの悩みについて表現できる機会を増やし、青少年や保護者の「子どもの保護」に対する理解を促進したという点で、以下の持続可能な開発目標に貢献するものであると言える。

目標16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。

16. 2. 子どもに対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する。

(4) 持続発展性

ハード事業：本事業でマルカジ難民キャンプ内に建設された子どもの保護センターと多目的センターは、引き続きUNHCRと当団体が責任を持って維持管理を行う。

ソフト事業：「子どもの広場」活動はこれまで、自分自身が難民である青少年ボランティアを主体に運営されてきており、マルカジ難民キャンプでは既に青少年ボランティアたちが研修で得た子どもの権利や保護に関する知識を活用して、積極的に運営に参加する体制が確立している。

当団体はジブチ国内全3キャンプの子どもの保護分野において、UNHCRと事業委託契約を結んでおり、本事業で建設された建物や育成された人材は、本事業終了以降、UNHCR事業として継続的に活用していく。